

Ⅲ 学校運営協議会 令和4年度の記録

(様式第4号)

学校運営協議会 会議概要

1	会議名	第1回 学校運営協議会
2	日時	令和4年4月8日 午後5時45分から午後6時45分まで
3	会場	浦里小学校 音楽室
4	出席者	井澤良夫会長、渡辺惣伸副会長、池田智明委員、島田義英委員、 林秀直委員、朝倉恭子委員、堀内寛子委員（安齋理江委員は欠席）
5	市側出席者	峯村秀則教育長、緑川文明学校教育課課長、加々井道男学校教育担当係長
6	公開・非公開等の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7	傍聴者	なし
8	会議概要作成年月日	令和4年4月9日

協議事項等	
<進行：学校長>	
1 開 会	
2 教育長挨拶	
<p>本日は皆様、大変お忙しい中、令和4年度 浦里小学校コミュニティ・スクール運営協議会の委員委嘱式 並びに第1回協議会においてをいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>昨年度は一昨年度に続き、新型コロナウイルスの感染拡大により、2年続きで、その対応に明け暮れ、学校は大変厳しい状況の中で教育活動を行ってきました。</p> <p>保護者の皆様、地域の皆様にも大変ご心配やご迷惑をおかけしました。しかし、皆様のご努力で、令和3年度を無事終了し、令和4年度をスタートすることができました。</p> <p>3月17日には、浦里小学校の卒業式が挙行され、7人の卒業生が学び舎を巣立ちました。私も上田有線ケーブルの放送で、卒業式の様子を拝見しました。児童一人ひとりが卒業の節目を重く感じながら、呼びかけによるメッセージの発表等を堂々としてやり遂げ、卒業していきました。4月6日には6人の新入生の入学があり、本年度は全校児童54人での出発でした。</p> <p>令和3年度、子どもたちは、厳しい教育環境、窮屈な学校生活の中にあっても、気持ちを切り替え、柔軟に対応しながら、目標をもって生活をしてきました。そして、本年度も、子どもたちは、「コロナに負けない」を心に秘めて、期待に胸を膨らませながら新学期をスタートしました。</p> <p>私は、このように、けなげに生きる子どもたちを、たいへん愛おしく感じています。そして、子どもたちが、様々なことを前向きに感じ、力強く生きてくれていることをありがたく思っています。</p> <p>コロナによって、厳しい状況が続き、どちらかと言えば暗いイメージになりがちな上田市内の学校ではありますが、ここ浦里小学校では、地域の皆さんによる、25もある「お助け隊」の熱心な活動により、明るい学校教育が実現しております。献身的なご協力に心から感謝申し上げます。</p> <p>「お助け隊」の具体的な活動内容には、児童の登校時の見守り、春の遠足のサポート、野菜や米作りへの支援、校庭の整備、庭木の手入れ、教科支援、読み聞かせ、クラブ活動の支援、コスモスの栽培、わら馬づくり等々があり、子どもたちに常に寄り添って支えていただきました。</p> <p>平成3年度を振り返ってみましても、新型コロナウイルスの感染が心配された中であって、何と、のべ2400人を上回る地域のボランティアの皆さんのご協力をいただきました。厳しい状況の中にあっても、本気になって浦里の子どもたちを育てていただきましたこと、心から御礼申し上げます。</p> <p>お助け隊等活動状況一覧表には、たくさんの支援活動の項目があり、その幅の広さと、内容の豊富さに、他の小学校はない、素晴らしさを改めて感じました。また、25もある、お助け隊のネーミン</p>	

グがユニークであること、名前を読むだけで支援の内容が分かり、親しみやすいことなどが素晴らしいと思いました。

さて、浦里小学校コミュニティ・スクール学校運営協議会は、上田市で初めて設置された協議会でございますが、今年度で12年目を迎えられました。これまでの11年間、大勢の地域の皆様、保護者、お助け隊などボランティアの皆様のご支援により、この浦里小学校を盛り立てていただき、心から感謝申し上げます。

浦里小学校の学校運営協議会の委員会の皆様のご尽力につきましては、お送りいただいた、本日の会議の資料「令和3年度 学校運営協議会 活動報告書」を拝見いたしました。

本校の学校運営協議会では、浦里小学校に学ぶ子どもたちや小学校のために、令和3年度の会合においても、委員の皆様方からのご意見がたくさん出されています。常に子どもたちに寄り添った大事なご意見がありました。

例えば、音楽発表会で「一人歌い」が子どもたちの成長にとって大事なこと。メディアコントロールによって、メディアの依存症を回避できること。5年生が米の売上金を修学旅行の補助に充てていることを大切にすること。浦里小学校を卒業した児童は、六中の通学に全員が自転車を使用するので、安全教育を充実させる必要があること等々の、ご指摘をいただいています。

また、学校の運営に関わるご意見も、多く出されていました。お助け隊の方にオクレンジャーを活用していただくこと。コロナ禍ではあるが、春の遠足やマラソン大会を実施してほしいこと。まもなく迎える創立150周年のこと等々です。

令和5年度の創立150周年の記念行事に向けては、組織を立ち上げて歩みが始まっているとお聞きしております。

私は平成30年に教育長を拝命した時、昭和47年に刊行された浦里小学校100年史を読み、これまでの浦里村の歴史、村を挙げて昭和初期の不況を乗り越えたこと、みそ汁給食やパンを作って給食に提供したこと等々、浦里小学校の沿革を知り、その重さを実感しました。

150年の歴史を刻んだ浦里小学校の周年記念行事が、保護者や地域の皆さんと共に、盛大なお祝いや式典になることをご期待申し上げます。

このあと、委員の皆様にご依頼状をお渡し申し上げます。これから1年間、委員の皆さんには、学校運営に積極的に参画していただくわけですが、学校職員と思いを一つにして、「全ては子どもたちのために」の理念のもと、子どもたちの成長に、ご尽力いただければ幸いです。

結びに、コロナ禍は、いつ収束するとも言えない、厳しい状況が続きますが、皆様には、浦里小学校に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、委員の皆様の益々のご健勝を祈念申し上げます。ご挨拶といたします。本年度もよろしくお願い申し上げます。

3 学校運営協議会委員委嘱

峯村教育長より各委員へ

4 学校運営協議会規約確認

学校長より説明

5 学校運営協議会委員の自己紹介

6 正副会長の互選

会長 井澤 良夫 委員

副会長 渡辺 惣伸 委員

<進行：学校長>

7 今後の日程の確認

学校長：本年度年6回の運営協議会を計画している。主な内容については各回について、記載の通り。

150周年記念事業については令和5年度に式典を実施。運営協議会の際に実行委員会を行う。6月の音楽会、9月の校舎を大切に作る日、10月の運動会ではご準備やご協力をお願いしたい。

会長：これでよいか。

委員：よい。

<承認>

8 令和4年度 学校運営について

学校長：グランドデザインについて説明する。学校教育目標は「自分のよさを切り拓く子ども」。本年度は先生方と話をし、子どもたちが主役になるということに大事にした時に、「教師が教える学校」ではなく、「子どもが学ぶ学校」であるという風に転換をしていきたいと思う。本年度の重点は「気づき 問いかけ やってみる」…この言葉はまだ洗練されていないところもあるので検討する。子どもたちの気づきからスタートして学習が始まる・活動が始まるということに大事にしたいと考えている。そのところはお助け隊の皆様との活動でも同じように考えている。情報をとらえ問いをもつ、解決の見通しをもち主体的に動く、自分の考えをもち伝える、仲間の思いに耳を傾ける、実はこれは子どもたちに望む姿。そのために、具体目標と取り組みのところでいくつか例年と違うところがある。「進んで勉強しよう」というところだが、日常の授業の充実というところで疑問形の学習問題とあるが、教師が教え込むのではなく、子どもたちが疑問を解決していけるような、子どもたちの言葉での学習問題を設定していきたい。児童理解に基盤をおいた授業構想ということで、私たち教員が子どもたちの良さ(強み)を知っていく、ということがないと子どもたちの言葉での学習問題には至らないだろうということで、今年勤務時間を8:05からにして、子どもたちの朝のスタートの時間は一緒だが、8:05~8:20までは子どもと触れ合う時間。子どものいる場所で話をしたり勉強を教えたり何をしているのか観察したり、子どもをまず知るところから全てが始まる、ということ。まず子どもを知ることを大事にしたい。チームによる支援というところだが、今年ほとんどの学校の小学校5・6年生で音楽専科、家庭科専科、英語専科以外の教科担任制がこの4月からスタートしている。本校も5・6年生で行おうとしたときに学年で1クラスしかない教科担任制をやるためには5年の先生が5年の算数と6年の算数を教えるという形になってしまう訳だが、大きな学校だと例えば6年1組の先生が自分のクラスで教えた教材を隣の2組3組でも使えるということで若干負担が軽くなるのだが、1つしかないクラスだと他の学年のことを教えなければいけないということで負担感が大きくなる。そこで今年は県が募集をしていた学びの改革実践校支援事業に申し込んだところ、午前中だけ来て下さる教科担任の先生をいただくことができた。なので、5年と6年の国語の授業をその先生にもっていただき、教科担任を充実させていきたいと思っている。連学年担任、連学年授業だが、これまでも体育と道徳は連学年で勉強することが多かったが、さらに一歩進めて連学年担任という意識を大事にして、それぞれのクラスを自分のクラスの子もだと思って対応する、そこで子どもたちを多面的に見たり子どもたちのつまづきとか困り感に気づいたり、それをチームで対応するというようなことをしながら、学習支援をしていきたいと思っている。今年はとにかく、子どもたちが中心になる、子どもから学びがスタートする、子どもが学ぶということに大事にしたいと考えて、色々取り組みをしているので、そんなことを思いながら資料の方に目を通していただけたらと思う。

(以後、本校の組織図、新任職員、「まなび」の教室について説明を行う。)

教育長：浦里小は自発的学びを大事にすることを大切にしている。

小規模校は、どうしても同じクラスの横のつながりが弱くなる。文科省が「主体的 対話的 深い学び」を打ち出した。子ども同士のやり取りの中から学びを深める方針。堀内校長先生のお考えが合っているな、と思う。小規模校の中学校を見たことがあるが、クラスに4人しかいないのに、その中学生が、どうしても先生のことを頼っていた。自立できないとその学校の校長先生が心配していた。同じようなことを考えられているのでは。お考えが素晴らしいと思うので頑張っていたきたい。

9 コミュニティ・スクール実践目標

学校長：「1. 広めよう！あいさつ運動」「2. メディアとじょうずにつき合おう！」について説明
PTAやその他の組織とも連携していきたい。

委員：承認

10 こまゆみ教室について

学校長：目的は、子どもたちが地域の方や大学生などの多様な方と豊かな体験をすることを通して、豊かな心と生きる力を育むこと。長野大学によるこまゆみ教室は夏休みや土曜日に児童と行いたい活動を企画し学校運営協議会に提案、修正したものを全校児童にプレゼンし実施。昨年度9月はオンラインで交流した。12月は体育館や広間で体を動かしたりトランプをしたりした。木彫は3学期に実施予定だったが、コロナのレベルが高くできなかった。木彫に関しては材料が買ってあり、卒業した6年生には小泉さんが彫ってプレゼントした。今年度1学期にできるとよい。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止を大切にしながら、実施の可否を判断していく。

11 その他

委員：事務局の方から連絡。承諾書を記入していただきたい。
議題は以上。

12 閉会の言葉

今回は、第2回7月12日(火) 開始時刻は午後5時45分